

情報連絡員報告総括表(令和8年5月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	↗	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・みその原料となる加工用米について、令和8年度産の価格の提案が始まってきている。令和8年度産は前年度産と比較すると価格の低下が見込まれているものの、前年度産は例年になく高価格水準であったことから、平年価格と比較すると依然として高値で推移する可能性が高く、引き続き厳しい状況が懸念される。
	パン製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の値上げをしたが、販売量が減少している。(スーパー等の売上が減少) ・消費者は必要以外の購入を控えている。 ・企業の残業食の廃止が続いている。
	処理牛乳・乳飲料製造業	↘	↘	↗	→	→	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。
繊維工業	ニット製造業	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・受注量が減少している。 ・中東情勢の影響が懸念される。 ・染色加工場の倉庫がパンク状態で出荷制限が発生している。 ・物流問題で運送が困難な地域が発生している。
	絹人織織物業	↘	↗	→	→	↘	↘	→	→	↘	<p>化合繊維物並びに絹織物の城端産地の状況は前月と大差なし。</p> <p>円安による原材料費の値上がりや副資材・外注費その他諸々のものの値上がりが続いており織物商品の値上げも検討している。しかし消費者は生活必需品の購入を優先しており、織物の需要が衰退している中での織物商品の値上げは確実に売上減少に繋がる。売上と収益の維持に苦慮している。</p>
	綿・スフ織物業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> ・イラン戦争の影響により、物流が停滞し、新規商売が進んでいない。 糊材等、諸経費の値上げにより、収益は益々悪化している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	
木材・木製品	一般製材業	↓	→	↓	↓	↓	→	↓	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・県内新設住宅着工戸数の前年同月比は、1月12.6%増、2月40.8%減、3月62.0%減、4月88.6%増と建築基準法4号特例(昨年4月施行)の影響で乱高下している。また、全国の4月新設住宅着工戸数は、昨年10月以来6か月ぶりに11.4%増に転じているが、住宅需要は依然として厳しい状況が続いている。 ・この住宅着工の急減(富山県は全国より下落幅が大きい)は、3月から県内の製材業・木材卸売業3社を倒産に追い込んでいる。 ・ナフサをはじめとする原油から精製される石油由来の建材・住宅資材の供給不安は、急速に住宅着工数を減少させる可能性があり、さらなる新設住宅着工戸数の減少は、需要を大幅に落ち込ませることから木材産業関係事業者全体を厳しい経営環境にしている。 ・今後、中小工務店は、工事中断や着工見送りが見られ、資金繰りへの影響も懸念される。 ・ロシア材取扱木材関連事業者は、新着住宅着工数の減少に加え、円安と中東情勢の混乱によるコンテナ不足など物流コスト上昇で厳しい環境にある。 ・プレカット工場については、新設住宅着工数の減少が継続しており稼働率は上がっていない。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
印刷	印刷業	↓	→	→	→	↓	→	→	→	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・中東情勢緊迫化に伴う印刷資材の高騰、供給制約が始まっている。顧客に再度の価格転嫁、納期の延長をお願いせざるを得ない状況に至っている。印刷に使用する用紙・インキ・各種フィルム、梱包資材等の多くは石油由来製品で有り、供給が確保されているはずとの政府発表の中、目詰まり発生を早期に解決してほしい。
化学・ゴム	医薬品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・中東情勢の影響により、原料メーカーでは製品出荷時に使用するナイロン袋が手に入りにくい状況にある。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年5月の県全体の生コンクリート出荷数量は、42,136m³で、前年同月比約115%と前年実績を4か月連続で上回った。 ・地区別では、新川地区が86.6%、富山地区が99.2%と前年実績を下回ったものの、高岡地区が155.6%、砺波地区が125.5%と前年を上回った。
	コンクリート製品製造業	↓	→	↑	→	↓	→	↓	↓	↓	・特になし。
	骨材・石工品等製造業	↑	→	↑	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカとイスラエルによるイラン攻撃により、世界的な石油供給減少となり、トラック燃料の値上げや建設関連の資材調達難により影響が出ている。今後この状況が続けばさらに影響が広がる。骨材需要については堅調な状況が続いている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	鉄 鉄 鑄 物業 製 造 業	→	→	→	→	↓	↓	→	→	↓	資材購入価格の高騰が著しい。中東情勢に絡み、先行きへの不安感も高まっている。
	銅・同合金 鑄物製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・地金高騰の長期化。 ・燃料、副資材の値上がり。
	アルミニウム 製品製造業	→	→	↑	→	→	↓	↓	↓	↓	・特になし。
	建築用金属 製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・新年度の始まりと同時に、中東情勢不安による影響が各社で出始めている。調達コストの急増や輸送費のアップ、材料によっては調達が難しいものもある。今後の見通しが不透明であり、長引けば業績へのネガティブな変化が心配される。 ・産業雇用安定センター(ジョブ産雇)と情報交換を行う。厚生労働省からの指示により全国47都道府県事務所で中東情勢による事業への影響(特に雇用変化について)を調査されている。全国的に中小・零細企業の倒産・廃業が増えており、富山県においても同じ状況。ただ、県内においては、住宅関係以外は、大手・中小含めて総じて大きな影響を受けているところは余らないとのこと。 ・しかしながら、どの業種においても材料・資材の調達が難しくなっており、今後その影響が心配される。(中小においては部資材の2~3か月先の納期は約束されているが、それより先については見通せない状況にある。) ・不振が続いていたコマツの業績(建機、自動車ともに)が回復傾向にあり、現在は人員不足になっているとのこと。コマツの回復は当団地の一部組合員においてもプラスとなる。 ・自動車は、トヨタ1強が続いているが、ホンダ以外は持ち直しつつある模様で、県内の関連企業も忙しくなってきたとのこと。 ・2026年度末に手形・小切手が廃止されることに向けて、電子決済(オンライン決済)の環境を整備している。
	めっき加工業	↑	→	→	→	↑	↑	↑	→	→	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先からのめっき品依頼が増加しており、売上高は増加傾向にある。 ・売上増加により収益状況、資金繰りともに好転している。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備 操業度	雇用 人員	業界の 景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸 売 業	セメント卸売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・5月は前月同様天候に恵まれこと、またダム関連工事が本稼働してきたことで進捗率は前年同月比137.0%と前年同月比を大幅に上回った。本年度も今のところ順調に推移している。しかしながらメーカーよりセメント値上げの要請が来ており、2年間で4回目の値上げとなり、今回の値上げの理由に明確な根拠が乏しく顧客からの反発が予想され憂慮している。
	非鉄金属製品卸売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	・全体的に動きが停滞している感がある。受注がなければ売上も上がらず、販売、製造の各社それぞれが存続をどれだけ持ちこたえられるか、というくらいに先々の不安の声を聞く。政府がどこまで現況を把握しているのかわかりたい。
小 売 業	鮮魚小売業	↘	→	↘	→	↘	→		→	↘	・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。
	食肉小売業	↘	↗	↗	↘	↘	↘		→	↘	・ゴールデンウィークは、よい動きがあったが、昨年よりも減少。富山市は、プレミアム商品券の影響で対象外の店で売上が減少。仕入価格が高騰しており、利益は減少している。
	野菜・果実小売業	↘	→	→	→	↘	→		→	→	・5月の卸売市場は、入荷数量が103%、kg単価が100%で売上が103%となった。 ・5月の組合員の取扱高は、昨年対比88%であった。4～5月累計で昨年対比90%。
	家庭用電気器具小売業	↘	↗	↘	→	↘	→		→	↘	・特になし。
	自動車小売業	→	→	→	→	→	→		→	→	・特になし。
	ガソリンステーション	↘	↘	↗	↘	↘	↘		↘	↘	・組合員(SS)をめぐる状況は、カーボンニュートラルの進展に伴いガソリン等の需要減が見込まれることや大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制など、基本的に経営環境が厳しい。米国・イスラエルとイランの戦闘は一時的なほぼ停戦状態が継続しているものの、ホルムズ海峡の事実上の封鎖について今後の開放が見通せず、原油価格の高騰や石油製品の供給不安が続いている。 ・県内では、先月に引き続き需要の回復感は弱く、また利用者の物価高による節約志向もあつてか、ガソリン販売量は減少が続いている。 ・販売価格は、イラン情勢の緊迫化を受けて3月中旬に急騰したものの、国による緊急的激変緩和措置(補助)により下落し、その後、落ち着いている。5月25日現在、4月27日との比較で1ℓあたりレギュラーガソリン及びハイオクガソリンが同額、軽油が0.2円の値下がりとなっている。

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
	スポーツ用品小売業	↗	→	→	→	↗	→		→ ↗	・中東の情勢により一部商品調達や仕入れ価格の上昇などの影響が出始めている。便乗値上げ的な仕入れ先の値上げも実質あると容易に推測できる。 ・ツーリズムや5月の連休は人の動きもよく、購買も好調だった。
	ショッピングセンター	→	→	↗	→	→	→		→ →	・物価高により節約志向が更に強まっており、買い控えと選別が更に進んでいる。
商店街	商店街	→	→	→	→	→	→		→ →	・今月は、天気が安定していたこともあり、昨年と比べ平日の人出が多かった。洋服店では夏服やそれに合わせた靴を購入する来街客が目立った。宝飾店で品定めする外国人の姿が見慣れた景色になってきた。
	商店街	↗	↗	↗	→	↘	↘		→ ↘	・特になし。
サービス業	情報サービス業	→		→	→	→	→		→ →	・特になし。
	クリーニング業	→		→	→	↘	→		→ ↘	・特になし。
	飲食業	↗		↗	→	↗	→		→ ↗	・昨年同月売上比9%増。 ・GW中は、来店客が途切れなかった。
	建築設計業	↗		→	→	→	→		→ →	・中東情勢の影響による一部建設資材の品薄及び高騰、また、人手不足により工期の遅延や延期が発生している。
	自動車整備業	→		→	→	→	→		→ →	・5月の自動車新車新規登録・届出台数(登録車と軽自動車の合計)は、前年並みである。 ・中東情勢の影響により、自動車関連部品や油脂製品(エンジンオイル、ブレーキオイル、ギアオイル等)の在庫が発注先にもない状態となっている。また、石油関連製品の発注も止まっており、自動車整備事業者は整備等が実施できるのか危機感を持って情勢を注視している。

建設業	鉄骨・鉄筋工事	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	・仕事量の少ない状態が続いており、鉄骨本体の加工だけでなく、付帯工事や現場仕事、また、同業他社の応援などをしながら稼働率を保っている。大手ファブが手掛ける大都市圏の仕事に関して、トラック車両の確保が人材面と金額面で大変難しくなっている。特に金額面では今までの倍以上になっており、その分加工費が目減りすることとなり、今後の受注活動が大変厳しくなっている。
	一般土木建築工事	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	管工事業	→	→	→	→	→	↘	→	・5月22日(金)に県連合会の総会を無事に終えた。所属員数が306名から6減となり300名となった。 ・ナフサ由来の資材入荷が滞り始めており、特に接着剤関係の入荷が厳しく工事に影響が出ている。(塩ビ管・保温材等々もメーカーから入荷予定日の問合せ不可との事) ・各資材の値上げ案内が数か月単位でされてくる状況。
	電気工事業	→	↗	→	→	→	→	→	・公共事業・民間設備投資は順調、住宅着工件数は低調で昨年同時期と同様である。中東情勢の長期化により、一部納期が未定な資材や仕入れ価格の上昇等、徐々に影響が出つつある。
運輸業	道路貨物運送	→	→	→	↘	→	→	→	特になし。
	道路貨物運送	→	→	→	→	→	→	→	・燃料価格は前年同月比、前月比とも+3.0円/Lと高い状況。物量は、前年同月比96.1%となった。休みが多く、稼働日数が少ないのも要因。